

研究 主題	主体的に活動し、よりよい学校生活づくりに参画する児童の育成 ー心理的安全性を高め、活動の見通しを持たせる指導の工夫を通してー
----------	---

第5学年学級活動学習指導案

指導月日 令和6年10月23日

所属校名 多賀城市立多賀城小学校

氏名 金子 圭太

1 議題「下学年と交流会をしよう」

（ウ 学校における多様な集団の生活の向上）

2 議題について

(1) 児童の実態【第5学年1組34名】

本学級の児童は、明るく素直で、仲良く協力して学習活動に取り組んでいる。学級活動に関しては、5月に「学級会オリエンテーション」を行い、学級会の進め方や役割等について共通理解を図った。その後、「1学期の係を決めよう」や「花山宿泊学習を成功させよう」といった議題で話し合い、実践を重ねてきた。花山宿泊学習に向けた活動では、学級会での話し合いで決まったキャンプファイヤーのスタンプの準備や練習において、一人一人が役割を果たしながら協力して取り組む姿が見られた。しかし、学級会においては、出された案に対する反対意見が多くなり話し合いが難航するなど、それぞれの意見のよさを見付けることや折り合いを付けながら合意形成を図ることに課題が見られた。

年度当初の5月と夏休み前の7月に学級や学年についての意識調査を実施した。「学級や学年をよりよくするために行動したり発言したりしているか」という質問に対しては、否定的な回答が27%から58%と増加しており、そのうちの半数以上が「何をしたらよいか分からないから」と回答していた。集団をよりよくするための方法等を具体的にイメージさせることができなかったために、行動できなかったり自信が持てなかったりする児童が多くなったものとする。一方、「学級活動では自分の意見や考えを述べているか」という質問に対しては、肯定的な回答が52%から61%と増加していた。「自分の意見で学級をよりよくしたいから」という回答がやや増えており、これまでの活動を通してよりよい集団生活づくりに参画したいという意欲が高まっている。しかし、学年全体としては横ばいの傾向があり、「周りにどう思われるか気になるから」という理由で否定的な回答になる児童も少なくない。学年担当の教員と連携し、各教科等との関連を図りながら日常的に心理的安全性を高める取組を継続するとともに、よりよい集団活動につながる言動や態度を具体化し共有していく必要があると考える。

(2) 議題選定の理由

夏休み明けの学校生活を充実させるための取組について議題ポストで児童から意見を募ったところ、学級集団の仲をより深めるために「1学期がんばったね会」を行いたいという提案があった。そこで、学級会で内容や役割分担について話し合い、1学期末に実施した。その次の段階として、これまで学級・学年の友達と力を合わせて様々な活動に取り組んできた経験を生かして他学年とも交流を図りたい、また12月に行われる児童会行事「青葉まつり」に向けて他学年とよりよく関わられるようになりたいという児童の思いを受け、司会団とともに本議題を選定した。本学年の児童は、1学期に実施した体力・運動能力調査の際に計測の補助という形で2学年と関わりを持ったが、日常的に他学年と関わる機会は持っていない。また、本校では新型コロナウイルスの影響でここ数年児童会行事を縮小して行っており、上学年の児童が下学年の児童を世話したり楽しませたりするような集会活動の機会もあり多く設けられていない。そこで、これまで自分たちが経験してきたことを基に下学年と楽しく活動できる内容や工夫を考え、交流することで、上学年として模範となる姿を目指そうとする意識

や、豊かな学校生活を自分たちの手でつくろうとする当事者意識を高める機会としたい。また、この交流会を通して、相手を思いやる気持ちや、みんなで協力し助け合っ活動することのよさを実感し、他者意識を育むことができるようにするとともに、互いに信頼し支え合うよりよい人間関係を築いていけるようにしたい。指導に当たっては、下学年担任と連携を密にし、5学年にとっても下学年にとっても意義のある活動となるよう、それぞれのねらいを明確にした上で活動できるようにしていく。

3 研究主題との関連

本研究は、心理的安全性を高め、活動の見通しを持たせる指導の工夫を通して、主体的に活動し、よりよい学校生活づくりに参画する児童の育成を目指すものである。「主体的に活動する」とは、「取り組むべきことや目標を自分で決め、率先して取り組むこと」と定義する。「よりよい学校生活づくりに参画する」とは、「楽しく充実した集団生活をみんなが送れるようにするために行動すること」と定義する。その実現に向けて、以下の手立てを講じていく。

(1) 自発的、自治的活動を促すための自己決定の場の設定

下学年と交流する集会活動においては、上学年はリーダーシップを発揮しながら下学年に対する思いやりの気持ちを持って取り組むことが求められる。そこで、児童と議題について確認する際には、学級・学年による集会活動と、下学年と交流する集会活動との違いはどのような点かを考えさせる。そこでの気づきを生かし、下学年と楽しく交流するためにはどのような内容や工夫が適切か、自分たちはどのような姿を目指していきたいかを自発的に考えられるようにしていく。

交流会に向けた準備を進める段階では、どのような係があれば自分たちの目指す交流会が実現できるかを学級会で話し合い、一人一人が自分の役割を自己決定できるようにする。同じ役割の児童同士でどのような工夫ができるかアイディアを出し合いながら活動するよう働き掛けるとともに、適宜係ごとの活動状況を報告し合う場を設けることで、自発的、自治的活動を促していく。

(2) 心理的安全性を高める工夫

学級全員で議題を決定した後には、オンライン表計算ソフトの共同編集機能を活用し、交流会の内容や工夫について、一定の期間、小グループで自由に意見交流ができる場を設ける。その後、学級会の前に改めて小グループによる話し合いの場を設けることで、自分の意見を発言することに心理的な不安を感じる児童も含めた全員が合意形成に関わる場面を多く持てるようにする。学級会では、同一グループの友達同士で必要に応じて助け合いながら発言できるよう働き掛ける。

小グループによる話し合いや学級会の際には、掲示物を活用しながら相手を尊重した話の聞き方を確認し、互いの考えを共感的に受け止めることができるよう促す。また、合意形成のプロセスの例を示すことで、それぞれの考えのよさを生かしながら合意形成が図れるようにする。

問題の発見・確認から振り返りに至るまでの一連の学習過程においては、よりよい集団活動につながる児童の姿を具体的に取り上げて称賛したり、児童同士が認め合ったりする機会を積極的に設けることで、児童の心理的安全性を高め、主体的に活動に取り組もうとする意欲につなげていく。

(3) 活動の見通しを持たせ、成長を実感させる働き掛け

よりよい集団生活づくりに参画するために何をしたらよいかの見通しを示すとともに、個や集団としての成果と課題を振り返らせる手段として「自分レベルアップシート」を新たに作成し、これを活用する。学級全員で議題を決定した後には、下学年と交流する集会活動を実施するに当たり、事前の活動や当日の活動においてどのような言動や態度がよりよい集団生活を送ることにつながるかを学級全体で話し合い、共有する。そこで共有した内容を「自分レベルアップシート」の評価項目とすることで、よりよい集団生活に参画するために何をしたらよいかという方向性を示すとともに、目標とする姿に自分がどれだけ近づいているかを随時確かめられるようにしていく。

また、「みんなのかがや木」と題して、集団生活をよりよくするために自分ができたことや友達が頑張っていたことを随時貼り出す掲示コーナーを設置する。日々実践したことを「見える化」することで、自分たちの力で集団生活をよりよくできているという自信や実感を持たせるとともに、更なる実

践意欲の向上につなげていく。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活についての 知識・技能	集団の一員としての 思考・判断・表現	よりよい人間関係作りへの 関心・意欲・態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しを持ったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

5 事前の活動（本時に至るまでの活動の流れ）

【司会団の活動】

日 時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す指導の姿 （観点）【評価方法】
10月 7日 業前	・議題案を確認し、選定する。（提案された議題） ・ハロウィンパーティーをしたい。 ・下学年との交流会をしたい。	・議題選びの視点を念頭に置いて選定することを指導する。	◎よりよい学級生活をつくるために、進んで議題の選定をしようとしている。（態度）【観察】
10月 9日 10日 業間休み	・活動計画を作成する。（提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること、条件等の確認） ・学級会の進行の仕方を確認する。 ・議題、提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること、条件等を学級活動コーナーに掲示する。	・下学年担任と相談しておき、日時や場所等の条件は教師が示す。 ・提案者の思いや願いが学級全体の共同の問題になるように、提案理由を深めるようにする。	◎司会団の役割、交流会に向けた話合いの進行の仕方等を理解している。（知識・技能）【活動計画、観察】
10月22日 業間休み	・各グループの意見を集約し、出された意見を整理する。	・各グループが記入したホワイトボードを整理し、話合いの見通しが持てるよう助言する。	

【学級全員の活動】

日 時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す指導の姿 （観点）【評価方法】
10月 8日 帰りの会	・議題を決定する。	・司会団の提案の下、学級全員で決定する。 ・よりよい集団活動につながる言動や態度について話し合い、共有する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を選んだり、目指す姿を考えたりしている。（態度）【観察】
10月16日～ 10月20日	・小グループごとのオンライン表計算ソフトに自分の考えを記入する。	・提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていることを共通理解できるよう必要に応じて助言する。 ・下学年児童の実態等について下学年担任から得た情報を児童に伝え、参考にさせる。 ・期間内であれば、いつでも何度でも記入や修正をしてもよいことを伝える。	◎提案理由に沿った意見を考え、判断し、オンライン表計算ソフトに記入している。（思考・判断・表現）【オンライン表計算ソフト】

10月21日 業前	・オンライン表計算ソフトを基にグループで話し合う。	・提案理由に沿ってグループで話し合い、交流会の内容や工夫についての意見をホワイトボードにまとめさせる。 ・手順やゴールを示すことで、スムーズに話し合いができるようにする。	◎根拠を明確にししながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【発言、観察】
--------------	---------------------------	--	---

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

学校生活をより楽しく豊かなものにするため、下学年の立場や思いを考えながら、交流会の内容や工夫について話し合うことができるようにする。

(2) 本時の指導に当たって

以下の手立てを講じて、本時の指導に当たる。

① 自発的、自治的な話し合い活動を促す工夫

児童が見通しを持って自発的、自治的に話し合い活動を行えるよう、互いの考えをあらかじめ共通理解できる場を設定する。事前に小グループによる話し合いでまとめた意見をホワイトボードに記入させ教室に掲示しておくことで、学級会の前に各グループの考えを把握し、話し合いの見通しが持てるようにする。学級会の際には、各グループが記入したホワイトボードを基に「くらべ合う」段階から話し合いがスムーズに行えるようにし、合意形成に時間を掛けられるようにする。

② 心理的安全性を高める話し合いの工夫

事前の手立てとして、オンライン表計算ソフトの共同編集機能を活用し、交流会の内容や工夫について一定の期間小グループで自由に意見交流ができる場を設ける。その後、学級会の前に改めて小グループによる話し合いの場を設けることで、自分の意見を発言することに心理的な不安を感じる児童も含めた全員が合意形成に関われるようにする。

本時では、話し合いに入る前に、よりよい話の聞き方についての掲示物を提示しながら、相手を尊重した話の聞き方について共通理解を図る。また、合意形成のプロセスの例を示すことで、それぞれの考えのよさを生かしながら合意形成が図れるようにする。話し合いの場面では、出された意見について改めて小グループで話し合う時間を設け、自分の考えを述べやすいようにすることで、学級の全員が合意形成に関わる場面を多く持てるようにする。また、必要に応じて同一グループの友達同士で助け合いながら発言してもよいことを助言する。振り返りの場面では、本時の話し合いにおける自己評価を記入させると同時に、友達のよかった点についても相互評価をさせ共有することで、互いを認め合う共感的な雰囲気をつくる。

③ 活動の見通しを持たせる工夫

話し合いを始める前に、「自分レベルアップシート」を用いて話し合うときに大切にしたいポイントを再度確認することで、学級会における児童の行動変容を促す。

(3) 児童の活動計画

第5回 5年1組 学級会 活動計画						令和6年10月23日（水）3校時	
議題	下学年と交流会をしよう						
提案理由 提案者	下学年との交流を深め、よりよく関わるができるようになりたいから さん						
司会団	司会	さん	黒板書記	さん	ノート書記	さん	
	副司会	さん	黒板書記	さん			
話し合いの めあて	よりよい意見を合わせながら、交流会の内容や工夫、係を考え決定しよう						
決まっ ていること	・室内（ワークスペース）のできる活動 ・1時間でできる活動						

話合いの順序	気を付けること	準備
1 はじめの言葉 2 司会団の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 先生の話 8 話合い 話し合うこと① 「何をするか」 「どんな工夫が必要か」 (27分) 話し合うこと② 「どんな係が必要か」 (8分) 9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	・みんなに聞こえる声の大きさを言う。(司会) ・一人一人めあてを発表する。 ・みんなに聞こえる声の大きさを言う。(司会) ・「よりよく関わることができる」が決定のポイントであることを確認する。(副司会) ・黒板にそれぞれの班がまとめたホワイトボードを貼っておき、1班から順に発表してもらう。 ・7班まで発表したら、質問がないか確認する。その後、グループで話し合う時間を5分とする。その時に、提案理由の「よりよく関わることができる」をポイントに話し合ってもらいように伝える。 ・話し合ったことを7班から順に発表してもらう。 ・多数決に頼らず、なるべくみんなが納得できるように決めていく。 ・必要な係については、どんどん発表してもらう。 ・決まったことを大きな声で発表する。この時間で決まらなかったことがあれば、帰りの会で決めることを伝える。(ノート書記) ・今日の話合いの感想や友達のよかったところを2分間で振り返りシートに記入してもらう。時間があれば、1人か2人に発表してもらう。(司会) ・みんなに聞こえる声の大きさを言う。(司会)	説明の紙 ホワイトボード 学級会ノート

(4) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
1 はじめの言葉 2 司会団の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 先生の話 8 話合い 話し合うこと① 「何をするか」 「どんな工夫が必要か」 (27分) 話し合うこと② 「どんな係が必要か」 (8分)	・めあてを持って自分の役割に臨めるように、事前に指導する。 ・提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 ・下学年児童の実態等について下学年担任から得た情報を再確認し、話合いの参考にさせる。 ・日時や場所については、あらかじめ下学年担任と相談の上で教師が決めておく。 ・学級全員の意見を踏まえながら、各グループでよりよい意見を練り上げてきたことを確認する。 ・掲示物を活用しながら、相手を尊重した話の聞き方ができるよう促す。 ・合意形成のプロセスの例を示し、必要に応じて、自分の意見に固執せず、相手の意見を取り入れて互いに納得のいく形に変えていくなど、折り合いを付けて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 ・よりよい集団生活につながる言動や態度について「自分レベルアップシート」で確認し、話合いでの実践を促す。 ・話し合うこと①は「くらべ合う」段階からスムーズに進められるよう、事前に小グループごとにまとめたホワイトボードを掲示しておき、出されている意見を全員で共通理解できるようにしておく。 ・出された意見に対して小グループで話し合う時間を設けることで、全員が意見を述べやすいようにする。また、同一グループの友達同士で必	◎下学年との交流が深まる会になるように、友達の意見を参考にしながら折衷案を考えて発言したり、みんなの共感を得られるような改善案を出したりしている。 (思考・判断・表現) 【発言、観察】

9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	要に応じて助け合いながら発言してよいことを助言する。 ・司会が進行に困った時は、合意形成を方向付けるような助言ではなく、論点を整理するなど話合いの方向性を示唆する。 ・校内の決まりや施設利用に関すること、安全に関わることなど自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 ・本時の話合いについて振り返りシートに記入させる。その際、友達のよかった点についても相互評価をさせ共有する。 ・集団決定できたことや、前回の学級会から成長した点を称賛する。また、提案理由を踏まえた発言や建設的な意見を述べていた児童の姿を取り上げて価値付けする。課題については端的に述べる。 ・これまでの司会団の頑張りやよさを具体的に称賛し、ねぎらう。 ・今後の見通しを確かめ、実践に向けた意欲付けを図る。	◎これまでの話合いの経験を生かして、合意形成を図るための話合いの進め方や約束を理解している。 （知識・技能）【観察】
---	---	---

(5) 本時の評価

評価の観点	十分満足できる（A）	努力を要する児童（C）への手立て
集団の一員としての思考・判断・表現	下学年との交流が深まる会になるように、友達の見解を参考にしながら折衷案を考えて発言したり、みんなの共感を得られるような改善案を出したりしている。	どの意見がより適切だと思うか提案理由を基に考えるよう促し、小グループの中で自分の考えを表現できるよう働き掛ける。

(6) 準備物

① 教師：学級会グッズ、掲示物（上手な話の聞き方、よりよい決定の仕方）、振り返りシート

② 児童：筆記用具

(7) 板書計画

② どんな係が必要か		小グループの意見（ホワイトボード）	① 何をするか、どんな工夫が必要か めあて よりよい意見を合わせながら、交流会の内容や工夫、係を考え決定しよう。 議題 下学年と交流会をしよう 提案理由 下学年との交流を深め、よりよく関わることができるようになりたいから。

7 事後の活動

日 時	児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す指導の姿 (観点)【評価方法】
10月23日 帰りの会	- 決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 - 役割分担が決まっていなければ、係の役割分担をする。	- 学級会で決まったことの要点をまとめて書くよう司会団に助言する。 - 全員が役割を担うようにする。	◎合意形成したことを基にみんなで協力し、進んで交流会の準備に取り組んでいる。 (態度) 【観察、自分レベルアップシート】
10月24日～ 10月31日 休み時間 帰りの会	- 係ごとに準備をする。 - 帰りの会等で、係ごとに適宜経過報告をする。 - 自分レベルアップシートに適宜取組状況を記入する。	- 係は必ず複数名で担当し、アイデアを出し合いながら協力して活動できるようにする。 - 適宜係ごとの活動状況を報告し合う場を設けることで、活動意欲の継続化を図る。 - よりよい集団生活につながる児童の姿を適宜取り上げ称賛する。	
11月 1日	- 交流会を実施する。 - 交流会終了後、振り返りを記入する。	自分の取組を振り返るとともに、学級や友達のよいところについても認められるように助言する。	◎交流会の目的を考え、めあてを意識しながら友達と協力して実践している。 (思判表) 【観察、自分レベルアップシート】

自分レベルアップシート

「1年生と交流会をしよう！」

5年 組（ ）

目指す自分たちの姿	期間	ふり返り（4よくできた 3できた 2もう少し 1まだまだ）			
①みんなにとってよいことは何かを考えながら話し合う。 （学活・交流会の準備など）	10/16～10/18	4	3	2	1
	10/21～10/25	4	3	2	1
	10/28～11/1	4	3	2	1
②友達と協力しながら、自分の役割を果たす。 （係・当番・委員会・学活など）	10/16～10/18	4	3	2	1
	10/21～10/25	4	3	2	1
	10/28～11/1	4	3	2	1
③1年生の立場を考え、やさしく接する。 （学活・交流会の準備・交流会など）	10/16～10/18	4	3	2	1
	10/21～10/25	4	3	2	1
	10/28～11/1	4	3	2	1

これまでの活動をふり返って書きましょう。

自分ががんばったことや成長したと思うこと、これからさらにがんばりたいこと	友達ががんばっていたこと、すてきだなと思ったところ
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----